

病院案内



独立行政法人
国立病院機構

東京病院



基本理念

患者さんと 地域と 共に歩む
職員と 共に進む

基本方針

- ・ 医療を受ける人の立場に立って人権を尊重し、安全で質の高い医療を提供します
- ・ 地域医療機関との連携を図り、地域に信頼される医療を提供します
- ・ 医療従事者の教育・研修に努め、医療に関する情報を提供します
- ・ 健全で安定的な病院運営に努めます



ごあいさつ

国立病院機構東京病院院長 松井 弘稔

当院は前身の国立療養所東京病院から、平成16年4月に国立病院機構東京病院として発足しました。敷地内には緑が多く、武蔵野らしい、くぬぎ、けやき、とちのき、やまぼうしなどの大木が生えています。つつじやアメリカハナミズキ、えごのき、さざんかなどの植栽が、季節になると華やかさを加えます。秋には、落葉樹が色づき、季節の移り変わりを教えてくれます。一方で、平成16年3月に完成した7階建ての病棟は、広い廊下にゆったりとした配置の病室が並び、大部屋のベッドもスペースをあけてカーテンで仕切られているため、入院中は落ち着いた雰囲気の中で、過ごしていただけます。外来は、はいつてすぐに2階まで吹き抜けのホールがあり、また緑の多い中庭など、圧迫感の少ないような工夫がされています。

医療面での当院の最大の特徴は、医師数、患者数ともに日本有数の呼吸器センターです。呼吸器疾患は、がん、感染症、間質性肺炎をはじめ多岐にわたりますが、それぞれの分野で呼吸器専門医に指導できるレベルの医師を有しています。それに加えて、地域医療に貢献するべく、内科系、外科系などの診療科も充実しています。また、リハビリテーションの歴史も古く、呼吸リハビリとともに、脳卒中中心の回復期リハビリテーション病棟も地域の患者さんを支えています。国立病院機構ということで、セーフティーネット系の診療科をもち、他病院の補完をしています。詳しくは「診療部門」をご覧ください。

当院は、教育、研修にも力を入れています。新人看護師の教育を始め、様々なレベルでの高度な看護師教育も行っています。医師に関しても、呼吸器内科、リハビリテーション科を中心に、後期研修の研修希望者も多く、呼吸器研修では1対1での指導やレクチャーなども行っています。院外に開かれた形の研修も、病理細胞診、リハビリテーション、呼吸ケア、呼吸器看護などのテーマで数多く行っています。また、多職種チームも数多く機能していて、医師、看護師、コメディカル、事務がお互いの知識や専門性を生かしながら、協力して患者さん中心の医療を行っています。

そのうえで、現状に満足することなく、医療の質や安全性の向上に病院をあげて取り組み続けるとともに、患者さんにとって満足度が向上するようにたゆまぬ努力を継続してまいります。

病院概要

名称／独立行政法人国立病院機構 東京病院
院長／松井 弘稔
所在地／〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3丁目1番1号
電話 (042) 491-2111 FAX (042) 494-2168

所管保健所／多摩小平保健所

病床数／医療法許可病床数 522床 (結核病床数 100床)

診療科／内科・外科・呼吸器内科・呼吸器外科・消化器内科・消化器外科・リハビリテーション科・脳神経内科・循環器内科・耳鼻咽喉科・アレルギー科・整形外科・眼科・泌尿器科・放射線科・緩和ケア内科・感染症内科・歯科・麻酔科・病理診断科・リウマチ科

指定医療／保険医療機関・労災保険指定病院・生活保護指定病院・身体障害者福祉法指定医療
更生医療指定病院・結核予防法指定病院・原子爆弾被爆者医療指定病院



沿革

当院は、昭和初期から結核療養の聖地と位置づけられた清瀬病院・東京療養所の時代から、我が国における結核治療・医学研究の中心的な役割を担ってきております。現在は、結核症、慢性肝疾患・神経難病などの safety net 専門医療施設として重要な役割を果たしているだけでなく、社会のニーズに合わせて呼吸器、喘息・アレルギー・リウマチ、消化器、肺循環・咯血、総合診療、放射線診療、腫瘍、臨床検査の8センターを設置し、各診療科の枠を越えた有機的な診療、地域の中核機関病院としての医療を行っております。今後も、国立病院機構に属する病院としてふさわしい高度・専門性を持った医療および臨床研究、教育研修の実施のために、更なる病院の充実強化に向け積極的に取り組んでまいります。

東京療養所

昭和14年11月 傷痍軍人東京療養所として開設
昭和20年12月 厚生省に移管、国立東京療養所と改称

清瀬病院

昭和6年10月 東京府立清瀬病院として開設
昭和22年4月 厚生省に移管、国立療養所清瀬病院と改称

統合

国立療養所東京病院

昭和37年1月 国立東京療養所と国立療養所清瀬病院を統合し、国立療養所東京病院として発足
昭和62年10月 臨床研究部設置
平成16年3月 病院建て替え工事を完了

独立行政法人国立病院機構東京病院

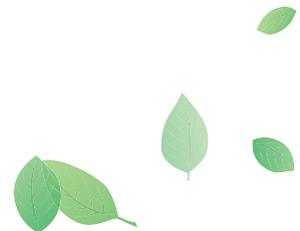
平成16年4月 独立行政法人国立病院機構東京病院として発足
平成22年8月 救急告示病院として承認
平成22年10月 呼吸器センター設置
平成23年3月 地域災害拠点病院として指定
平成24年7月 喘息・アレルギーセンター・消化器センター・総合診療センター設置
平成24年10月 二次救急 開始
平成26年4月 放射線診療センター設置
平成26年11月 人間ドック開始
平成28年2月 地域医療支援病院として承認
平成28年4月 腫瘍センター・臨床検査センター設置
平成29年4月 東京都がん診療連携協力病院（肺がん）として指定
平成30年4月 肺循環・咯血センター設置／東京都難病医療協力病院として指定
平成31年4月 東京都アレルギー疾患医療専門病院として指定
令和4年12月 緩和ケア病棟建て替え工事を完了、20床から30床へ増床。

● 病院全体のご案内



● 各階のご案内

7階	7東病棟 結核	7西病棟 結核		
6階	6東病棟 呼吸器内科	6西病棟 呼吸器内科		
5階	5東病棟 呼吸器内科 循環器内科	5西病棟		
4階	4東病棟 呼吸器内科・呼吸器外科 整形外科	4西病棟 消化器内科・消化器外科 泌尿器科・眼科		
3階		3西病棟 リハビリテーション科 脳神経内科・整形外科		
2階	各科外来 外来化学療法室 臨床検査科 治験管理室	HCU・手術室・売店		
1階	地域医療連携室 各科外来・薬剤部 臨床検査科	食堂・薬剤部・栄養管理室		2病棟 脳神経内科
				1病棟 緩和ケア
	外来棟	病棟		



呼吸器センター

呼吸器内科は、歴史ある結核診療で培った経験を活かしながら、呼吸器センターにおいて疾患別に腫瘍、感染症、びまん性肺疾患、COPD、肺循環 / 喀血、アレルギー科と呼吸器外科の7部門を設立し、放射線診療センター、リハビリ科、緩和ケア内科などとの横断的診療で体制を整えています。患者さんのニーズにお応えするよう医療を提供します。専門外来は、喀血、肺高血圧症、肺癌、びまん性肺疾患、非結核性抗酸菌感染症、COPD、睡眠時無呼吸症候群などを対象に設置し、関東圏からの患者紹介をお受けし、それぞれの診断と治療を迅速かつ適切に行っています。

呼吸器外科は呼吸器センターの一部門として存在し、外科治療の必要な肺癌、気胸、縦隔腫瘍、炎症性肺疾患（非結核性抗酸菌症、アスペルギルス症）、膿胸などを扱っています。すでに標準的なアプローチとなった胸腔鏡下手術を中心とし、他の病院ではあまり行われない炎症性肺疾患に対する手術が当科の特徴です。外科治療は大変強力な治療手段に成り得ますが、侵襲もあるため、呼吸器内科・放射線科・リハビリ科などと綿密な連携を取りながら、治療を進めています。

	部 門	対象疾患・治療法など	
呼吸器センター	腫瘍 (良性腫瘍・肺がん・縦隔腫瘍など)	内科・外科治療 放射線治療 緩和ケア	
	感染症	結核・非結核性抗酸菌症 細菌・ウイルス 真菌症(肺アスペルギルス症・アレルギー性気管支肺真菌症 他)	
	びまん性肺疾患		間質性肺炎 サルコイドーシス 過敏性肺炎 薬剤性肺炎 血管炎
		COPD	COPD 呼吸管理・呼吸不全 睡眠時無呼吸症候群
		呼吸器・アレルギー科	気管支喘息 腫瘍性疾患 炎症性疾患(感染症、他) 胸腺炎・膿胸など胸膜疾患
	肺循環・喀血センター	呼吸器外科	気管支動脈塞栓術
		肺循環	肺高血圧・肺循環障害

睡眠時無呼吸症候群の検査

東京病院では睡眠ポリグラフ検査(ポリソムノグラフィー:PSG)ができます。

14時~16時にご入院いただき、翌朝10時頃に退院のスケジュールで1泊での検査を行っております。保険診療、自費診療、両方に対応しております。



消化器センター

消化器は、食べ物を口からお腹に送る食道、食べ物を一時的に貯めておく胃、食べ物と消化液が混じり合う十二指腸、消化吸収をする小腸、水分を吸収する大腸、便を排泄する肛門、吸収された栄養を代謝する肝臓、肝臓で解毒された老廃物を腸に排泄する胆道(胆管と胆嚢)、消化液を作る膵臓と、たくさんの臓器から成り立っています。そして、それぞれの臓器に、癌やポリープなどの腫瘍、ピロリ菌や肝炎ウイルスなどの感染症、循環障害、潰瘍、ヘルニア、胆石、痔など様々な病気が生じます。このように多様な消化器疾患に対する迅速で総合的な専門診療を、地域の皆様にご提供できるよう、消化器センターでは内科系・外科系の消化器専門の医師を中心に、消化器専門看護師、放射線科医師、リハビリテーション科医師、緩和ケア内科医師、地域医療連携医師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーらが連携してチーム医療にあたっています。

外来化学療法室



喘息・アレルギー・リウマチセンター

アレルギー科は呼吸器内科と連携し、気管支喘息や咳喘息はじめ種々の呼吸器疾患にも対応しています。リウマチ科の主な対象疾患は関節リウマチ・リウマチ性多発筋痛症・全身性エリテマトー

デス・多発性筋炎・皮膚筋炎・ANCA 関連血管炎・成人スチル病・強皮症・脊椎関節炎などです。生物学的製剤などによる最新治療を行っています。

肺循環・喀血センター

患者さんのニーズに益々お応えできるように肺循環分野まで診療を拡大し、2018年4月から私たちは肺循環・喀血センターを開設しました。2010年に開設した喀血治療部門では、毎週火曜日に診療を行っています。大喀血で急変される患者さんはカテーテル治療の進歩とともに激減してきました。当院の気管支動脈塞栓術の実績は全国でも有数です。肺高血圧症は、1990年代の新

規治療薬の開発に伴い内科治療が著しく発展しましたが、依然として難病と考えられ、早期診断と治療が求められています。肺循環・喀血センターとして、医療提供の向上につながるよう患者さんとともに肺高血圧症と喀血治療に努め、その一方で、地域の先生方と連携しながら、この分野の診療においても、頼りにされる病院を目指しています。

診療科のご紹介

脳神経内科

特に神経難病（パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症など多くの疾患があります）について診察、治療を行っています。その他、認知症やふらつき、しびれなど日常生活に支障をきたす疾患の原因などの検査も行っています。

感染症内科

東京病院はエイズ拠点病院ですので、感染症内科は HIV 感染症診療を積極的に行っています。呼吸器感染症合併 HIV 感染症を多数治療してきました。また、東京病院は呼吸器内科病床 300 床を抱えていますので、感染症内科は結核を含めた呼吸器感染症にも対応しています。

眼科

主に、白内障手術、眼瞼下垂・眼瞼良性腫瘍・内反症などの瞼の手術、その他に抗 VEGF 薬物療法を行っている。入院、日帰り手術のどちらでも対応可能です。

耳鼻咽喉科

主に耳・鼻・のどの病気の診療を行います。病院にある全科的視野を背景に診療できることが特徴です。



超音波検査装置



呼吸機能検査装置



IMRT（強度変調放射線治療）装置

循環器内科

胸痛・動悸・高血圧・心雑音・むくみなどの症状をお持ちの方に、心不全、虚血性心疾患、不整脈、心臓弁膜症などの循環器疾患に対する診療をおこなっております。必要に応じて心エコー、ホルター 24 時間心電図、心筋シンチ、心臓カテーテル検査などを行い、薬物治療、経皮的冠動脈形成術、ペースメーカーなどの治療を行います。ペースメーカー外来が専門外来としてあり、植込み後の患者さんを対象にペースメーカーの機能、電池残量などの点検を行っております。

整形外科

脊椎疾患、四肢関節疾患に対して保存的治療と手術を行っています。骨粗鬆症への投薬 / 注射治療、脊椎疾患への脊椎除圧術（頸椎、腰椎）、四肢骨折に対する骨接合術 / 人工骨頭置換術、変形性関節症に対する人工関節置換術（股関節・膝関節）、関節リウマチの生物学製剤を含む薬物治療と関節滑膜切除術など幅広く行っています。

泌尿器科

尿路性器癌（腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌、前立腺癌、精巣癌）の診断を迅速に行い、病期に応じた手術、薬剤治療（抗癌剤、ホルモン療法、免疫療法）、放射線療法などの治療を集学的に行います。排尿障害や尿路感染症などの良性疾患の治療も積極的に行い、前立腺肥大症や尿路結石に対する経尿道的手術にも取り組んでいます。

歯科

感染対策を十分に講じた上で、外来・入院の患者さんを対象に一般歯科治療を行います。他科と連携し、口腔ケア、手術前後・化学療法中・ステロイド投与中の口腔管理、睡眠時無呼吸症候群に対する口腔内装置作成なども行っています。

麻酔科

手術に必要な麻酔を、患者さんの状態に見合った適正な方法（全身麻酔、硬膜外麻酔、脊髄も膜下麻酔など）で行っていきます。また、術後早期の痛みの管理（急性期疼痛管理）にも対応していきたいと思っています。日本専門医機構麻酔科専門医が高度な技術と安心を提供します。

臨床検査科

患者さんから採取した血液や尿、喀痰などの検体を分析装置や顕微鏡を用いて検査しています。また心電図や超音波検査、呼吸機能検査などで身体の状態を検査しています。これらの検査データは、病気の診断や治療、経過観察などに役立っています。

放射線科

当科は、画像診断部門と治療部門からなり、専門医、診療放射線技師及び看護師により全科にまたがる横断的な診療にあたっています。画像診断部門では、診断専門医が CT、MRI 及び RI 等の画像検査について読影を行い、依頼医に対して迅速な報告を行っています。治療部門では治療専門医が、病態・病状に合わせた最適な治療計画を行い、IGRT（画像誘導放射線治療）、IMRT（強度変調放射線治療）、定位放射線治療などの高精度放射線治療にも対応しております。当科では、地域の医療施設からの画像検査依頼や放射線治療依頼についても柔軟に対応しております。

リハビリテーション科

リハビリテーション科では、回復期リハビリテーション病棟（50床）にて脳血管障害や骨折後のリハビリテーションを行っています。専従・専任のリハビリテーション医が主治医となり、基礎疾患の管理と科学的予測に基づいたリハビリテーションを行い、より安全で質の高いリハビリテーションを提供します。医師・歯科医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・医療ソーシャルワーカー・管理栄養士・薬剤師・歯科衛生士など、多職種連携によるきめ細かいチーム医療には40年以上の実績があります。院内外の各診療科と連携し、合併症についてもできる限り対応するとともに、生活期の医療・介護とも密に連携し、継続性をもって円滑な社会復帰に貢献します。

また、院内リハビリテーション・センターとしての機能も有しており、脳神経内科・呼吸器内科・整形外科からの依頼の他、周術期やがんのリハビリテーションにも対応しています。特に呼吸器リハビリテーションに関しては、多彩な呼吸器疾患に対応しており、日常生活動作の指導用パンフレットを作成しています。

豊かな自然に恵まれた療養環境の中で、1人1人の目標に向けてカンファレンスを重ね、家庭や地域での「その人らしい生活」の実現を目指して全職種が知恵を結集しているのが当院のリハビリテーションチームです。



リハビリテーションルーム



豊かな自然に恵まれた療養環境



当院のリハビリテーションチーム

緩和ケア病棟のご紹介



主にがんを治すことを目的とした手術療法・がん化学療法・放射線治療・ホルモン療法などの継続が困難であり、もしくはその治療を希望しない患者さんのために、こころやかなだの苦痛に対するケアを提供する専門の病棟です。

当院では症状のコントロールに放射線治療が有用と思われる場合は積極的に適用しています。また、患者さんおよびケアをしている方々が休息できるような短期一時的入院（レスパイトケア）も受け入れています。

大切なお時間を大切な方々にご自分らしくお過ごし頂けるよう多職種チームでサポートさせていただきます。



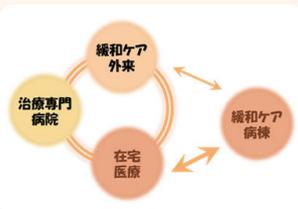
2022年12月
リニューアルオープンしました！

緩和病棟外観

緩和ケアの受け方

緩和ケアのみを受ける時期はつらい症状はお薬を使って和らげていきます。

お薬を中心とした緩和ケアは、緩和ケア外来に通院して受けることもできますし、ご自宅で過ごしながら在宅医療の中で同じ治療を受けることもできます。また、つらい症状が強くなった時には、緩和ケア病棟に入院して、緩和ケアを受けることもできます。緩和ケア病棟から退院し、ご自宅で在宅医療を受けながら過ごすこともできます。「どこで過ごしたいか」というご希望が一番大切になるため、ご本人、ご家族のご希望に沿って対応させていただきます。



特別室



デイルーム



お風呂



レクリエーション

看護部の理念

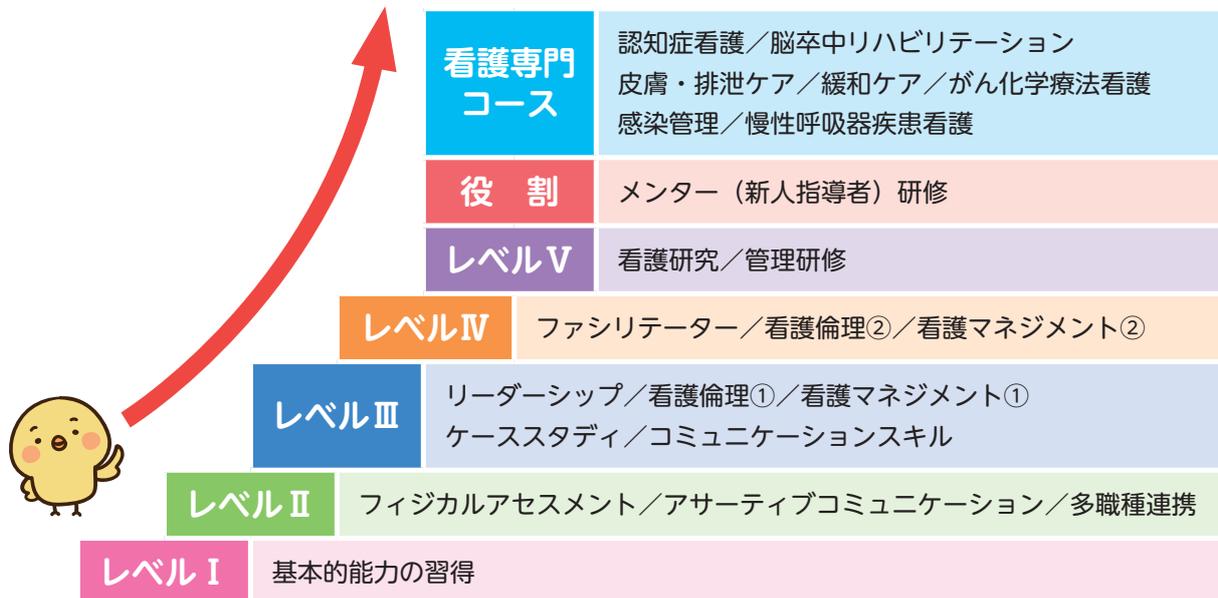
思いやりのある、あたたかい看護を行います。

看護部の基本方針

1. 看護の役割と責務を自覚し、患者さんの個別性と安全を大切にされた看護を実践します。
2. 専門職業人としての知識・技術の向上を図ります。
3. 研究的視点で臨床看護の質の向上を図ります。
4. 患者さんの生活の質改善に向けて、地域医療・保健機関との連携を図ります。
5. 患者さんと一緒に考え、看護を実践します。

看護部の教育

当院の理念・基本方針のもとに、地域の人々の健康に関するニーズに応え、質の高い看護を提供できるように、豊かな感性と高い倫理観をもち、幅広い知識・技術・態度を統合して、根拠ある看護実践を行える真に自律した看護師の育成を目指しています。



安心できる入院生活に向けて

- 入院中の生活については、病棟で主治医、看護師から説明があります。詳細は『入院のご案内』をご覧ください。わからないことがございましたら、お尋ねください。
- 特別室は個室と2人室とがあり、シャワー室を併設した部屋もご用意しております。
- 特別室以外のお部屋は、4人室を採用し、入院患者さん1人あたりの専有面積を広くしております。また、各部屋専用のトイレを備え、療養環境の向上に配慮しております。
- 患者さん、ご家族に安心して病院を利用していただくため1階7番窓口に患者相談窓口を設置しております。



特別室 (2人室)



4人室

お食事について

- 入院中のお食事については医師の指示により症状、年齢などを考慮してご用意致します。
- 一般食（常食、むさしの食、貧血食）の患者さんを対象に特別メニューを実施しております。
- 食中毒防止のため、食品の持ち込みは控えて下さい。
- 管理栄養士による栄養指導を行っております。詳しくは担当医、看護師にお尋ね下さい。



病棟食堂

院内の利用施設



病衣・下着等レンタル



ランドリー



キャッシュコーナー



入院用品販売(売店内)



ベーカリー(売店内)



喫茶スペース



自動販売機



談話室

チーム医療とは、一人の患者さんに複数のメディカルスタッフ(医療専門職)が連携して、治療やケアに当たることです。病院では、様々な職種のメディカルスタッフが働いています。こうした異なる職種のメディカルスタッフが連携・協働し、それぞれの専門スキルを発揮することで、入院中や外来通院中の患者さんの生活の質(QOL)の維持・向上、患者さんの人生観を尊重した療養の実現をサポートしています。

ICT 感染制御チーム (Infection Control Team)

病院内で感染症が生じていないか情報共有をするとともに流行拡大を防ぐための早期介入を行っています。また、根拠に基づく感染対策について検討し、現場への提案・実践の確認・評価を行い、院内感染の発生を未然に防げるよう努めています。

メンバー

感染制御医師、感染管理認定看護師、看護師、薬剤師、細菌検査技師、診療放射線技師、医療安全係長、リハビリスタッフ、事務

AST 抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team)

耐性菌抑制を目的に、特定抗菌薬使用例と血液培養陽性例の情報を基に、週1回抗菌薬の選択・投与量に関してカンファレンスを行い、抗菌薬が適正に使用されているかを確認しています。また、必要時には直接主治医に変更案を提示しています。

メンバー

感染制御医師、感染管理認定看護師、薬剤師、細菌検査技師、事務

RST 呼吸サポートチーム (Respiratory Support Team)

人工呼吸器離脱や挿管チューブの抜管にむけた最適な治療の道筋を助言し、サポートするとともに、人工呼吸器の安全管理、治療効果の向上、合併症の減少をめざしたチーム活動を行っています。現在、人工呼吸器を装着されている患者さんに対して、医師とコメディカルが患者さんの回復を促進するための介入を検討しています。

メンバー

医師、歯科医師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、管理栄養士、臨床工学技士

NST 栄養サポートチーム (Nutrition Support Team)

体力を消耗させる病気や重症の病気では栄養状態が低下しますが、栄養状態が低下すると病気はさらに治りにくくなり進行します。この悪循環を栄養面から改善して病気回復をめざします。週1回、栄養改善が望まれる患者さんについて討議を重ね、総合的な改善策を検討しています。

メンバー

医師、歯科医師、管理栄養士、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士

じょくそう 褥瘡対策チーム

褥瘡(床ずれ) 回診を行い、洗浄方法や除圧方法、褥瘡局所の評価方法等の支援をしています。栄養サポートが必要な患者さんに対しては、褥瘡対策部会の管理栄養士がコーディネーターとなり、NSTと連携を図りチーム医療を展開しています。

メンバー

脳神経内科医長(褥瘡対策委員長)、皮膚・排泄ケア認定看護師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士

緩和ケアチーム

病気を抱えている方が治療や療養を行っている上での困りごとに対し、多職種でサポートさせていただくチームです。身体の不快感、心の不快感、今後の不安などを抱えた患者さんご家族に対し、入院中、定期的に訪問し、主治医や病棟看護師と連携しながら、疾患の治療や日常生活をよりよく過ごして頂くためのお手伝いができるよう活動しています。

メンバー

医師、歯科医師、緩和ケア認定看護師、退院調整看護師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ

DCT 認知症ケアチーム

多職種と連携して認知機能の低下がある患者さんが安心して療養できる環境作りや、患者さんの生活背景を踏まえながら、患者さんのもつ力を活かしたケアの実践を目指して活動しています。

メンバー

医師、認知症看護認定看護師、医療ソーシャルワーカー

APT 急性肺血栓塞栓症予防チーム (Acute Pulmonary Thromboembolism Prevention Team)

患者さんの入院経過や周術期に発症しうる急性肺血栓塞栓症に関連するリスク評価、診断、治療、予防対策の場において、専門的な臨床知識・技術に基づき、病院や医療従事者への教育・支援を行っています。定期的に急性肺血栓塞栓症や静脈血栓塞栓症のリスク評価と予防対策の報告と検証を行って、急性肺血栓塞栓症の院内発症を未然に防げるよう努めています。

メンバー

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、事務

MIST 分子標的治療・免疫治療支援チーム (Molecular-target therapy immunotherapy support team)

抗がん剤等の治療の場において、多職種による専門的な知識・技術に基づき、患者さんやスタッフへの介入を行っています。入院中の患者さんに対しては、週に1回ベッドサイドに伺い、副作用の予防と軽減のための問診を行っています。また、退院した後も、必要に応じて医師と連携し、患者さんが安心して治療に臨めるよう活動を行っています。

メンバー

医師、薬剤師、がん化学療法看護認定看護師

当院では初めての方も含め、診療予約ができます。
また、予約の変更もできますので、お気軽にご連絡ください。

患者さん 他院からの紹介状

あり

地域医療連携室

地域医療連携室 電話番号

TEL: **042-491-2934** (直通)
(受付時間 平日の8:30~17:15まで)

● **地域医療連携室の目的**

地域医療連携室は、地域の医師会や医療機関と連携し地域医療ネットワークを整備し、できるだけ当院とかがりつけ医療機関との業務分担を行い、地域の患者さんが安心して継続的医療を受けられるようサービスの向上を図ることを目的としています。

ご利用時間について

月曜日～金曜日(平日) 8時30分～17時15分まで
(※翌診療日予約分は15時30分までとなります)
(※CT・MRI・栄養指導は15時30分までとなります)
休日及び時間外については、当直医が対応いたします
ので東京病院(代表電話)へおかけください。

● **外来の診療予約をされる場合**

患者さんの診療予約のご依頼をされる場合は、地域医療連携室へご連絡ください。
なお、患者さんご自身でも外来予約をお取りになることも可能です。

● **転院(入院)のご依頼をされる場合**

患者さんの転院(入院)のご依頼をされる場合は、地域医療連携室へご連絡ください。
併せて「患者様連絡票」をFAX願います。

※ **連携医の皆様へ**

患者さんをご紹介いただく場合は、地域医療連携室までご連絡ください。

なし

予約センター

予約センター 電話番号

TEL: **042-491-2181** (直通)
(受付時間 平日の8:30~15:00まで)

予約センターでは、診察の予約日時の変更・取消や東京病院を初めて受診する方や受診したことのある方の新たな診察の予約をお取りすることができます。

※医師の休診や予約の状況によってご希望に添えない場合がございます。



予約センター (正面入口のすぐ近くにごございます)



入院サポートセンター

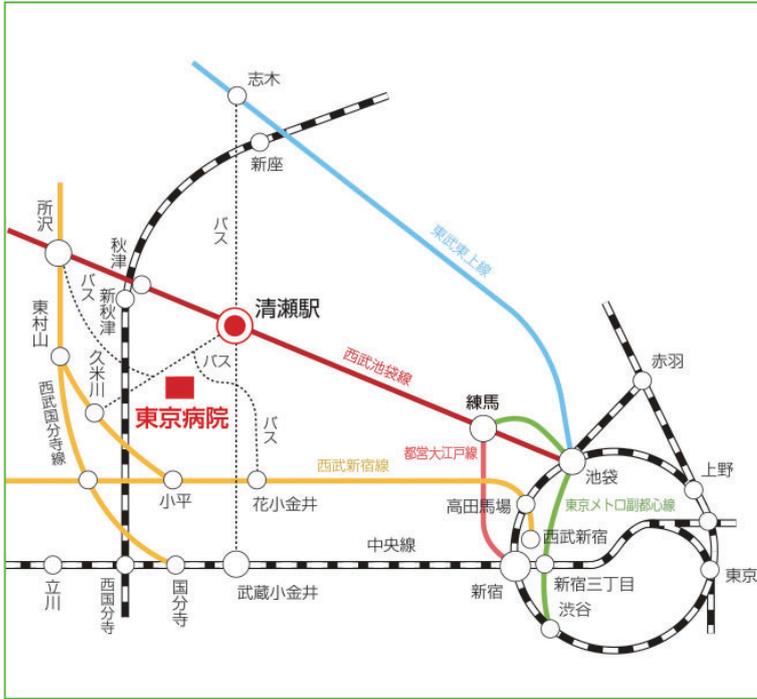
Hospitalization support center

入院サポートセンターでは、予約入院となる患者さんの入院支援や入院申込手続き等を行っています。特に手術や検査のために入院される患者さんには、入院後、安心して入院生活が送れるよう看護師、薬剤師、管理栄養士等の多職種による治療や検査説明、入院に関する指導等支援を行っています。



入院サポートセンター

交通のご案内



電車各線からのアクセス

西武池袋線

- 「清瀬駅」南口よりタクシー5分
 - 「清瀬駅」南口バス2番乗り場より
 - ・久米川駅行・所沢駅東口行 → 「東京病院北」下車
 - ・下里団地行・滝山営業所行・花小金井駅行 → 「東京病院玄関前」下車
- ※早朝夜間など「東京病院玄関前」を經由しない場合がありますので、車内アナウンスにご注意ください。

清瀬駅へは、

- ・池袋から西武池袋線快速・準急 … 約22分
- ・新宿からJR埼京線または山手線で池袋乗換 … 約36分
- ・新宿から都営大江戸線の練馬乗換 … 約40分
- ・渋谷から東京メトロ副都心線直通 … 約39分

JR武蔵野線

- 新秋津駅よりタクシー10分
または西武池袋線「秋津駅」で乗り換えて「清瀬駅」まで

西武新宿線

- 「久米川駅」北口バス1番乗り場より
清瀬駅南口行 → 「東京病院北」下車
 - 「花小金井駅」北口
清瀬駅南口行 → 「東京病院玄関前」下車
- ※早朝夜間など「東京病院玄関前」を經由しない場合がありますので、車内アナウンスにご注意ください。



お車でのお越しの方

- 駐車場：265台収容可能（30分以内無料）



独立行政法人
国立病院機構

東京病院

National Hospital Organization Tokyo National Hospital

〒204-8585 東京都清瀬市竹丘3丁目1-1

代表

TEL : 042-491-2111

FAX : 042-494-2168

地域医療連携室(直通)

TEL : 042-491-2934

FAX : 042-491-2125

予約センター(直通)

TEL : 042-491-2181



上記QRを読み取り
ホームページを見る
ことができます

<https://tokyo-hp.hosp.go.jp/>

ご意見、ご質問はこちらまで E-Mail : 217-admin-9@mail.hosp.go.jp